



平成 24 年度総会 報告書



日本学生観光連盟 執行部

平成 25 年 4 月 22 日

日本学生観光連盟 関係各位

日本学生観光連盟
代表 林 日奈子
(桜美林大学 3 年)

日本学生観光連盟 平成 24 年度総会のご報告

平素より日本学生観光連盟（略称：学観連）の活動にご協力いただき、深く感謝申し上げます。平成 25 年 3 月 17 日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催した、平成 24 年度総会についてご報告致します。

【参加大学・参加人数】

跡見学園女子大学、桜美林大学、川村学園女子大学、杏林大学、高崎経済大学、帝京大学、東海大学、文教大学、明海大学、横浜商科大学、立教大学、流通経済大学の 12 大学から、56 名の会員が参加しました。学観連顧問である鈴木勝先生（桜美林大学）、穴戸学先生（横浜商科大学）、学観連 OB の方にもご参加いただきました。

また、学観連サポーター・連携企業・観光関連団体から合わせて 6 名にご出席いただきました。

【平成 24 年度総会報告】

議案として以下の事が挙げられました。（議案書については資料として最後に添付）

- 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告、決算報告
- 第 2 号議案 役員改選
- 第 3 号議案 平成 25 年度事業計画、予算案

● 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告、決算報告

平成 24 年度の活動として報告されたものは以下の通りです。

- ・ 4 月 22 日 第 1 回学観連集会
- ・ 5 月～10 月 「旅を基軸としたビジネスプランの企画研究」
- ・ 6 月 10 日 設立 3 周年記念イベント
- ・ 8 月 8 日・9 日 川崎フィールドワーク「地域から発信せよ！川崎の観光資源」
- ・ 8 月 20 日～24 日 全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部・夢未来創造委員会、学観連主催
「第 2 回若旦那・若女将密着体験プロジェクト」
- ・ 10 月 12・13 日 国際機関 日本アセアンセンター主催
「メコン地域・日本人学生の交流・意見交換会」
- ・ 11 月 24 日 講演会 2012「先輩・若手社員に学ぶ、ここが聞きたい“観光業”！」
- ・ 2 月 5 日 主催：社団法人日本観光振興協会 共催：日本学生観光連盟
「第 9 回 産学連携オープンセミナーin 東京」

決算報告については資料 10 の通りです。

● 第 2 号議案 役員改選

新年度役員改選では、以下の 19 名が新役員として承認されました。

<平成 25 年度（第 5 期）執行部役員> ※学年は平成 24 年 4 月時点

代 表：	林 日奈子	桜美林大学 3 年
副代表：	富樫 沙貴	立教大学 3 年
	三橋 友輔	明海大学 3 年
会 計：	大垣 拓也	横浜商科大学 3 年
総務部：	寺内 美里	桜美林大学 3 年（部長）
	小塚 沙也加	跡見学園女子大学 3 年
	広瀬 彩愛	帝京大学 3 年
	大川 周良	立教大学 2 年
	高畠 秀宣	立教大学 2 年
広報部：	川崎 理美	横浜商科大学 3 年（部長）
	田中 夏帆	跡見学園女子大学 3 年
	津田 拓海	立教大学 3 年
	成澤 真依	帝京大学 3 年
	上川 駿	東海大学 2 年
渉外部：	中澤 瑠生	跡見学園女子大学 3 年（部長）
	溝 佳奈美	帝京大学 3 年
	宮本 由	文教大学 3 年
	内倉 綾香	立教大学 2 年
	清家 美帆	帝京大学 2 年

※来年度より、総務・広報・渉外の役職は「部」として運営

● 第3号議案 平成25年度事業計画、予算案

平成25年度事業計画として承認されたものは以下の通りです。

- ・ 6月 会員交流イベント
- ・ 6月 フィールドワーク（テーマ：フィルムツーリズム）
- ・ 8月 「第3回 若旦那・若女将密着体験プロジェクト（仮）」
- ・ 10月 会員交流会イベント
- ・ 10月 「ASEAN 地域交流会（仮）」
- ・ 11月 観光産業従事者を招聘しての講演会
- ・ 2月 社団法人 日本観光振興協会主催「産学連携オープンセミナー（仮）」
- ・ 2月 会員交流会イベント
- ・ 3月 学観連総会

上記以外にも、株式会社 JTB コーポレートセールスとの共同プロジェクトや、国際交流をテーマにした中長期的なプロジェクト等を計画しています。

- ・ 渉外部では、所属大学を訪問し、会員の活動への理解を深め、方針の伝達を行うことで連盟内の結束強化に力を入れていきます。
- ・ 広報部では、SNS を活用した広報活動を充実させ、本連盟の認知度を高めていきます。

予算案については資料13の通り提案され、承認されました。

【交流会報告】

今年度は、総会後の企画として交流会を行いました。また交流会時には、「日本学生観光連盟 OBOG 会」の発足式を行いました。

交流会では、日本の観光地に対する理解を深めるため、観光に関する「都道府県クイズ」を実施しました。クイズを実施するに当たり、渉外を含む2～3名の役員が永田町の都道府県会館を訪問し、各県の観光政策や観光地についてお話を伺いました。また、各県からオリジナルのノベルティをご提供いただき、クイズの景品とするとともに、これをもって各県の PR とさせていただきます。チーム対抗で行ったクイズ大会は大いに盛り上がり、会員同士の交流を深めることが出来ました。

ご協力いただいた35の都道府県会館の皆様、誠にありがとうございました。

＜ご協力いただいた都道府県＞

北海道、青森県、山形県、宮城県、秋田県、福島県、栃木県、神奈川県、茨城県、千葉県、埼玉県、愛知県、静岡県、山梨県、長野県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、大阪府、三重県、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県、兵庫県、岡山県、鳥取県、香川県、徳島県、愛媛県、佐賀県、長崎県、鹿児島県、沖縄県



【新代表挨拶】

学観連 第5期執行部役員 代表に就任しました、桜美林大学2年の林日奈子です。

多くの方々のご協力のもと、学観連総会・交流会を無事に終えることができました。総会・交流会の準備にご協力いただいた都道府県会館の皆様、顧問の先生方、四期執行部役員、評議員、参加して下さった学観連会員の皆様、サポーター・連携企業の皆様に深く感謝申し上げます。

私は平成24度 副代表として、執行部役員を務めてまいりました。一年間執行部役員として活動した経験を活かし、学観連の更なる発展のため精進していきたいと思います。今年度まで13名だった執行部役員が、19名の新体制と人数が増えたことで、今までできなかったことにも挑戦していきたいです。私たち5期生は1~4期生が作り上げてきた土台を継承し、学観連の更なる発展を目指してまいります。今後運営していく上で、何度も壁にぶつかるかと思いますが、役員一同協力して乗り越えていければと思います。

サポーター、プロジェクトパートナー、学観連連携企業の皆様、顧問の先生方、今後ともご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。また、会員の皆様、私たち執行部役員一同、大学の机上の勉強では得られない様々なイベント・プロジェクトを考え、実施していきますので是非積極的にご参加ください。

次年度も引き続き、日本学生観光連盟をよろしくお願い致します。

【皆様へ】

学観連は主に観光系学部・学科の学生が所属している団体です。「観光を学ぶ学生同士がネットワークを構築し、実社会の観光場面で学習活動並びに社会貢献を行うことを通して、観光の新たな可能性を求める」ことを目的に日々活動しております。私たち、執行部は年間を通して、フィールドワークや講演会等を企画・運営しております。現在では参加大学数21大学、会員数477名の組織に成長しました。今後も、学観連が持つ学生のネットワークを生かして大学の枠を超えた活動を展開し、実際のフィールドで観光を実践的に学んでいきます。各イベント・プロジェクト開催の際はぜひご参加ください。また、皆様からのご意見、活動提案も随時募集しております。

学観連サポーターならびに連携企業・団体の皆様には引き続きご支援よろしくお願い致します。

【お問い合わせ先】

ご質問・お問い合わせ等がございましたら、下記の連絡先までお知らせください。また、各種SNSにて随時イベントのご案内をしております。合わせてご覧ください。

Mail : gakukanren@yahoo.co.jp

HP : <http://gakukanren.m40.coreserver.jp/>

ブログ : <http://ameblo.jp/gakukanren/>

Facebook : <http://www.facebook.com/gakukanren> Twitter : @gakukanren

本部 : 〒230-8577

神奈川県横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1 横浜商科大学 商学部 貿易・観光学科 宍戸研究室内

日本学生観光連盟 平成 24 年度総会
議案書



- | | |
|---------|-------------------|
| 第 1 号議案 | 平成 24 年度事業報告、決算報告 |
| 第 2 号議案 | 役員改選 |
| 第 3 号議案 | 平成 25 年度事業計画、予算案 |

2013 年 3 月 17 日
日本学生観光連盟 執行部

● 連盟概要

日本学生観光連盟（略称:学観連 英語表記:Japan Student Tourism Association）は、観光を学ぶ学生同士がネットワークを構築し、実社会の観光場面で学習活動並びに社会貢献を行うことを通して、観光の新たな可能性を求めることを目的に設立された学生組織です。学生が自主的に活動し、学生の活力と柔軟なアイデアから新たな観光の可能性を切り開き、実社会の観光場面で貢献できるような活動を行っていきたいと考えております。

- | | |
|---|------------|
| ① 実際のフィールドを通じての学び
② 観光学界・観光業界・行政との連携
③ 学生同士のネットワークの構築
④ 次の世代への情報発信 | } 観光の発展に貢献 |
|---|------------|

● 登録団体一覧

（団体登録 18 校 個人会員所属 3 校 五十音順）

- | | | | |
|-----------|------------------|-----------|-------------|
| ・立教大学 | TRANSIT | ・東海大学 | T-wave |
| ・横浜商科大学 | ホスピタリティ研究会 | ・東京成徳大学 | TSU 観光文化 |
| ・桜美林大学 | 国際ツーリズム研究会 | ・新潟国際情報大学 | 学生団体 TIC |
| ・川村学園女子大学 | ツーリズム&ホスピタリティ研究会 | ・文教大学 | 観光研究会 Avion |
| ・跡見学園女子大学 | 跡見ニューツーリズム研究会 | ・明海大学 | 白田ゼミ、(個人会員) |
| ・共栄大学 | 観光ビジネスコース | ・流通経済大学 | 流通経済大学 |
| ・杏林大学 | 木崎ゼミナール、(個人会員) | ・昭和女子大学 | (個人会員) |
| ・淑徳大学 | すた☆とら | ・日本大学 | (個人会員) |
| ・高崎経済大学 | 観光研究会 | ・早稲田大学 | (個人会員) |
| ・高崎商科大学 | 岩下千恵子ゼミナール | | |
| ・玉川大学 | ツーリズム研究部 | | |
| ・帝京大学 | REISE | | |

※加盟 21 大学・会員数 477 名（平成 24 年 1 月 10 日現在）

● サポーターの皆様（平成 25 年 3 月 17 日現在）

- ・一般社団法人 日本旅行業協会（JATA）
- ・国際機関 日本アセアンセンター
- ・在日外国観光局協議会（ANTOR-JAPAN）
- ・全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会 青年部
- ・社団法人 日本観光振興協会

● プロジェクトパートナー（平成 25 年 3 月 17 日現在）

- ・株式会社 JTB コーポレートセールス

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告

● 学観連集会

【日 時】平成 24 年 4 月 22 日(日)

【場 所】国立オリンピック記念青少年総合センター

【参加者数】31 名（非会員を含む）

【内 容】(株) JTB 法人東京〈現 (株) JTB コーポレートセールス〉の事業開発部部長久保田達之助様、大河内裕樹様のご協力のもと、「旅の無限の可能性」をテーマに講演頂いた。同時に、非会員にも学観連の活動に興味を持ってもらうため、団体紹介を行った。初の試みの“専用フォーラムによる申し込み”は参加者から好評で、且つ管理もし易かった。



【課 題】

今回、チラシ作成や SNS を始め「ガクメル」というメルマガコンテンツも活用したが、宣伝方法には工夫の余地が大いにあるといえる。

● 旅を基軸としたビジネスプランの企画提案

【期 間】平成 24 年 5 月 19 日～10 月 6 日

【参加者数】8 名

【内 容】本活動は主に以下の 3 点を目的とし、ビジネスプランの作成を通して学習した。

- ①実社会で必要とされる、ロジカルシンキングやプレゼンテーション能力、マーケティング能力を身に付けること。
- ②現代ビジネスで応用されている分析手法やプロセス、戦略といった大学の講義では得られない知識を得ること。
- ③他大学の学生や学年の異なる学生と目標を共にし、課題解決に向けて協力することで、新たな刺激を得ること。

まず 5 月 19 日にプロジェクト説明会を行い、久保田様に 4 月の学生集会同様の講演を、大河内様に学生事業提案コンテストの説明をしていただいた。当初は複数チームを結成し、8 月に学観連内で報告会を行い、上位のチームが 10 月に行われる BWT 主催の学生事業提案コンテストに出場する予定だった。しかし活動内容のレベルの高さから参加者は 8 名しか集まらず、自然にコンテスト出場が目標となり学観連の独自色が薄まる結果となった。月に一度の本社ミーティングを軸に、週に一度の学生ミーティングを通して約半年間活動した。

【成果】

参加者こそ少なかったものの、類を見ないほどの大きな支援、そしてマーケティングを学べる場としてもこの活動は有難いものである。半年間に渡るプロジェクトだったが、達成感ややりがいが大きかったと言える。

【課題】

今後は取り組むテーマを易しくし、1、2 年生にも参加してもらえるよう、ハードルを下げてみることも一考だ。

● 設立 3 周年記念交流イベント

【日 時】平成 24 年 6 月 10 日（日）

【参加人数】50 名

【協 力】日本航空(株)

【内 容】

このイベントは、「(a) 学観連設立理念の再確認、(b) 会員のモチベーション向上、(c) 会員と交流を図り、他のプロジェクトやイベントへの参加を促す」ことを目的として企画・実施された。前年度までは食事のみの交流会だったが、今年度は学観連で開催する意義を考え、学習面も考慮したイベントとあわせて行なった。具体的には、8 月に開催した“産業観光”をテーマとしたフィールドワークに関連付けての開催である。多くの会員が航空業界に強い関心を持っていることに着目し、日本航空(株)が一般向けに実施している機体整備工場の見学を選定した。

告知方法はその他イベントと同様、代議員を通じてのメールやホームページへの掲載、ブログ等で行った。参加募集方法も同様にグーグルの申し込みフォームを利用したが、他のイベントと異なり、見学者数に制限があったため、上限に達し次第申し込みを締め切った。

プログラム前半は、飛行機の格納庫や実際に整備士が働いている機体整備工場を見学した。その後、入社 2 年目の若手社員の方から仕事内容や大学時代の過ごし方などについて講演をしていただいた。プログラム後半は食事を交えつつ懇親会を行い、普段あまり話すことの出来ない他大学の会員と交流し、親睦を深める機会を提供することが出来た。

【成 果】

その後のプロジェクトやイベントの参加状況をみると、このイベントから参加者数が増加し、リピーターの出現もみられたため、当初の目的を果たせたのではないかと考える。

【課 題】

整備工場内で撮影した写真の掲載制限などもあったが、後日ブログやホームページなどで活動報告を行わなかった。



見学中の様子。実際の制服を着たり、間近で機体を見たりと体験型の見学だった。



講演中の様子。普段あまり聞く機会のない若手社員の方の話を熱心に耳を傾けていた。

● 川崎フィールドワーク「地域から発信せよ！川崎の観光資源」

【日 時】平成 24 年 8 月 8 日（水）、9 日（木）

【場 所】1 日目：ソリッドスクエア、味の素(株)川崎事務所、JFE スチール(株)東日本製鉄所、川崎市臨海部周辺

2 日目：ソリッドスクエア

【参加者数】1 日目：34 名 2 日目：31 名

【後 援】川崎産業観光振興協議会

【内 容】

1 日目：事前学習講演会 講師：亀山安之 氏

(川崎市観光協会 産業観光プロデューサー&ツアーディレクター)

工場見学、工場夜景見学

2 日目：学生討論会

川崎市にある工場・施設等を見学したり、地域の人々や生産に携わっている人々の話を聞いたりした。そこに生まれる「体験価値」を見出し、新しいタイプの学習型観光の一つである「産業観光」を実体験する。また、企業の地域における役割や、その技術の保全と継承の重要性を理解する。そこで得たものを自分たちなりにまとめ、2 日目の討論会にて意見交換を行った。

【成果】

参加者にアンケートを行ったところ、参加前は川崎に対して観光のイメージがなかったが、参加後は工場夜景など、魅力的な産業観光の資源を持っていることを知り、「観光都市としての一面に気づくことができた」という意見が挙がった。また、「今回のフィールドワークが地域活性化について考える機会になった」という回答も得られた。観光を考える上で重要なのは「地域」の存在である。いかに地域が持つ資源を活かし、流行に左右されない観光地にしていくか考えるためのきっかけになった。

【課題】

活動テーマに対する学生の知識不足。事前学習を行うなどフィールドに出る前に知識を付けておく必要がある。協力して下さる企業や行政の方々に、何らかの形で貢献できるような活動をしていく。



● 第2回若旦那・若女将密着体験プロジェクト

【実施日】平成24年8月20日～8月25日（4泊5日）

【主 催】全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会青年部・夢未来創造委員会
日本学生観光連盟

【受け入れ施設】

- | | |
|----------------------|----------------|
| ・湯沢温泉 越後湯沢 HATAGO 井仙 | ・松之山温泉 ひなの宿ちとせ |
| ・湯沢温泉 雪国の宿高半 | ・みなかみ温泉 別邸仙寿庵 |
| ・みなかみ温泉 蛍雪の宿尚文 | 計5施設 |

【参加人数】20名（うち役員5名）

【内 容】

本事業は、旅館業における経営者密着型インターンシップである。

近年、旅館業界において優秀な人材の確保が難しい状況が続いている。旅館の現場で働くことで若い世代にその魅力を感じてもらい、まずは旅館業に対するマイナスイメージを払拭しようと、昨年度より「若旦那・若女将密着体験プロジェクト」と題して共同インターン事業を行っている。学観連としては、「①経営者密着型インターンへの参加を通して、旅館での作業は勿論、宿の理念、地域に密着したおもてなし、地域観光への取り組みを学ぶこと②施設ごとに宿泊プランの作成を行い、旅館の新たな魅力を学生ならではの視点で発見すること」を目的とした。

2回目の実施であった今回は、昨年度浮かび上がった改善点や、より学生の体験希望を反映させたプログラムを構成して頂いた。若旦那・若女将のスケジュールに合わせ、経営者の仕事を間近で見られる内容となった。また今回は、業務体験に加え、「それぞれの宿に合った宿泊プランの作成」という課題をプログラムに組み込んだ。

【成 果】

参加者アンケートでは9割の学生が「満足」としており、「来年も参加したい、または友人に薦めたい」と回答していた。また、今回「別邸 仙寿庵」にて体験したチームの宿泊プランが「じゃらんネット」の販売にこぎつけた。来年度への期待が高まる。

【課 題】

・予想以上に参加希望者が多く、期限より早く締め切ることになった。しかし、プラン作成や宿泊ということを配慮し、履歴書の提出を含め男女比や学年比をもう少し考えるべきだった。

・実施後、本プロジェクトの良さを会員や外部へ十分に発信出来ていなかった。参加していない人にも伝わるように、ブログ等に活動の様子をしっかりと掲載すべきだった。



● メコン地域から来日した学生との交流会・意見交換会

【日時】平成 24 年 10 月 12 日（金）、13 日（土）

【場所】芝パークホテル

【参加人数】1 日目：15 名 2 日目：15 名

【主催】国際機関 日本アセアンセンター

【内容】

「ASEAN Youth Exchange Program 2012」の日程のうち、学観連は 10 月 12 日（金）、13 日（土）両日における講演会とアセアン各国（メコン地域）で観光を学ぶ学生と交流・意見交換会を行った。交流・意見交換会には、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムから 5 名ずつの計 25 名と日本学生計 15 名により行われた。

一日目日本アセアンセンター観光交流部長代理 browse 様より「日本の文化・伝統について」英語でご講演をいただいた。日本の文化・伝統の紹介を英語で聞く貴重な時間となった。また環境省自然環境局の堀上様より、三陸復興や国立公園についてレクチャーしていただいた。このレクチャーについては通訳により、日本語と英語の両方で聞くことができ、また日本の自然の美しさや素晴らしさを改めて知ることができた。その後、アセアン各国の学生と日本学生の立食形式の交流会を行った。英語でのコミュニケーションであったが、すぐに打ち解けることができ、楽しく交流できた。

二日目日本人のアセアン各国への旅行者の動向について学んだ後、5 つのグループ（1 グループ:カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムから各国計 1 名ずつ計 5 名+日本人学生数名）に分かれ、ワークショップを行った。トピックはメコン地域から見た「インバウンドの更なる活性化のためには何をすべきか」。日本人学生は各国に対するイメージなどを伝えながら活発な意見交換会が英語で行われた。最後に討論内容を各グループで模造紙にまとめ、英語で発表を行った。

【成果】

「英語での交流」がハードルになったのか思うように集客はできなかったが、その分意識の高い学生の積極的な参加が見られた。終始英語でのコミュニケーションに刺激を受け、異文化への興味をより強くするきっかけとなった。同年代で観光を学ぶ海外の学生の意識の高さに触発され、広い視点で観光を考えていかなければならないと、観光に対する意識を高めることができた。

【課題】

学観連として行ったことは集客や当日の日本学生のまとめのみであった。アセアンに対しての知識も浅かったため、事前に勉強会を幾度か開くなどの工夫が必要である。学観連での国際的な行事はないため、機会を活かすべきであった。来年度はより改善した国際交流のイベントを目指したい。



● 講演会 2012「先輩・若手社員に学ぶ、ここが聞きたい“観光業”！」

【日 時】平成 24 年 11 月 24 日（土）

【場 所】東海大学代々木キャンパス

【参加者数】76 名（非会員含む）

【後 援】社団法人 日本観光振興協会、東海大学観光学部

【講演協力企業】東武鉄道(株)、成田国際空港(株)、フォーシーズンズホテル椿山荘東京（現：ホテル椿山荘東京）

【内容】

この講演会は学観連が毎年主催している、観光業界で働く方々を講師として迎える講演会である。4 度目の開催となる今回は、「学生の観光業界への進路」を大きなテーマとして企画した。先輩社員の方・若手社員の方双方の立場から現場の“生の声”をお聞きすることで、参加した学生が観光業界で働く具体的イメージを膨らませ、観光の学びを発揮できる将来を考える機会を提供できないかと考えた。それぞれ会社のホープとして活躍されている中堅社員の方と入社 4～6 年目の若手社員の方にご講演いただいた。講演は、企業ごとに 3 つの教室に分け、少人数で行った。事業内容や各業界の課題点、あまり知られていない仕事の裏側などをお話し頂いた。パネルディスカッションでは、「先輩社員がホンネを語る！今、学生に伝えたいこと」というテーマのもと、先輩社員の方々 3 名にご登壇いただいた。講演会終了後は学食にて交流会をセッティングし、講演者の方々と学生との会話の場を設けた。

【成 果】

企画当初の目標動員数 100 名には達さなかったが、アンケートからはほとんどの参加者に満足してもらえたという結果が得られた。講演者の方々と近い距離で話を聞くことができたという声や、興味のある業界の仕事内容、本音や現場の話など普段聞けない話を聞くことができたという声が読み取れ、今回の講演会のテーマに見合った内容を作ることができた。

【課題】

役員のいない団体の学生にも活動の魅力を発信するために、Facebook、Twitter、SNS を利用した周知にも力を入れるべきである。また、本格的に参加者を募る二次告知のタイミングや、一目で魅力が伝わるチラシにも改善する必要がある。次年度は広報部員が増加したため、会員に身近に感じてもらえるような SNS やチラシでの広報活動に期待できる。



● 第9回 産学連携オープンセミナーin 東京

【日 時】平成25年2月5日(火)13:30~16:45

【場 所】東商ホール

【参加者数】535名(87大学 443名の学生を含む)

【主 催】社団法人日本観光振興協会

【内 容】



社団法人日本観光振興協会が毎年開催している観光業界トップをお招きして行われるセミナーに第8回から共催として企画運営に携わっている。観光関係の業界人のみならず、観光業に関心を持つ就活生など、多くの人を集めている。学観連の役割、観光を学ぶ学生が今学んでいることをリアルタイムでセミナーに反映させ、学生に観光業界への興味を持ってもらい、多くの人に足を運んでもらうセミナーにすることだ。

昨年に引き続き、受付、接遇、舞台管理を学観連スタッフが担当したほか、今年度は新たに司会、学生からの研究発表を役員が担当し、「地域から発信せよ！川崎の産業観光」と題し、8月に行った川崎フィールドワークの発表をさせていただいた。

＜基調講演＞：「新規事業への挑戦～エキナカから地域活性化～」

→東日本旅客鉄道(株)事業創造本部地域活性化部門部長の鎌田由美子様

＜パネルディスカッション＞

「ツーリズムイノベーション～21世紀のリーディング産業を目指して～」

→(株)i.JTB 代表取締役社長、WILLER ALLIANCE(株)代表取締役社長、

ジェットスター・ジャパン(株)常務執行役員、(株)プリンスホテル執行役員

【成果】

- ・早い段階から打ち合わせを何度も行っていたため、スムーズに準備することができた
- ・前年度より参加者は増え、概ね好評だった
- ・当日は目立ったミスもなく、全員がしっかりと役割を果たせた

【課題】(セミナー当日の運営含む)

- ・学観連の宣伝をさせてもらえるようお願いするべきだった(チラシの配布等)
- ・次年度は学観連からの参加者数を事前に自分達で把握したほうが良い
- ・今年度も応募者に対して当日の参加者が減っているの、その対策が必要



第1号議案 平成24年度 決算報告

平成24年度 一般会計決算

＜自 平成24年4月1日 至 平成25年3月17日＞

1) 会計報告

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	摘要
入会費	3,000	82,200	△ 79,200	300円×274名
非会員イベント参加費	0	8,700	△ 8,700	300円×29名
受取り子	0	45	△ 45	
当期収入合計	3,000	90,945	△ 87,945	
前年度繰越金	173,853	173,853	0	
総計	176,853	264,798	△ 87,945	

【支出の部】

(単位:円)

科目		予算額	決算額	差異	摘要
事業費	総会	0	2,544	△ 2,544	菓子折り、講師お茶
	第 1 回学観連集会	0	9,400	△ 9,400	会場費、菓子
	全旅連インターンシップ	0	10,181	△ 10,181	菓子折り、郵送、講師お茶
	川崎フィールドワーク	0	7,116	△ 7,116	バス代、菓子折り、文具、コピー
	講演会	35,000	12,642	22,358	講師お茶、菓子折り、懇親会補助費、資料の送料
事業予備費	予備費	126,853	0	126,853	
小計		161,853	41,883	119,970	
運営管理費	HP 管理費	0	3,105	△ 3,105	サーバー使用料、手数料
	会場費	0	5,400	△ 5,400	代議員会の会場費
	消耗品費	10,000	3,751	6,249	代議員会の懇親会
	郵送費	5,000	0	5,000	
小計		15,000	12,256	2,744	
当期支出合計		176,853	54,139	122,714	
当期収支差額		0	210,659	△ 210,659	
次年度繰越金		0	209,559	△ 209,559	

平成24年度における決算につきまして、上記の通り報告致します。

作成日時:平成25年度3月16日(火)

会 計:加藤 友里

2) 監査報告

上記会計報告につき監査し、内容に間違いの無いことを報告致します。

監査日時:平成25年度3月16日(火)

会計監査:三堀 世奈

第2号議案 役員改選（案）

現役員は平成25年3月31日に任期満了となる。それに伴い、以下の通り役員改選を行いたい。

平成25年度役員（学年は平成25年4月時点）

任期：平成25年4月1日～平成26年3月31日

代 表：林 日奈子 桜美林大学3年

副代表：富樫 沙貴 立教大学3年
三橋 友輔 明海大学3年

会 計：大垣 拓也 横浜商科大学3年

総務部：寺内 美里 桜美林大学3年（部長）
小塚 沙也加 跡見学園女子大学3年
広瀬 彩愛 帝京大学3年
大川 周良 立教大学2年
高畠 秀宣 立教大学2年

広報部：川崎 理美 横浜商科大学3年（部長）
田中 夏帆 跡見学園女子大学3年
津田 拓海 立教大学3年
成澤 真依 帝京大学3年
上川 駿 東海大学2年

渉外部：中澤 瑠生 跡見学園女子大学3年（部長）
溝 佳奈美 帝京大学3年
宮本 由 文教大学3年
内倉 綾香 立教大学2年
清家 美帆 帝京大学2年

※来年度より、総務・広報・渉外の役職は「部」として運営

【年間活動計画（予定）】

6月	交流会イベント
6月	フィールドワーク
8月	第3回 若旦那・若女将密着体験プロジェクト（仮）
10月	交流会イベント
11月	講演会 2013
2月	社団法人 日本観光振興協会主催「産学連携オープンセミナー」（仮）
2月	交流会イベント
3月	学観連総会

この他にも年4回（4月・6月・9月・12月）代議員会、月に2回役員会を行う予定です。

【今後の取り組み】

企業見学や会員交流会、観光産業従事者による講演会に加え、SNS の活用なども積極的に行う予定です。

活動案募集！！

学観連では会員からの活動案を随時募集しています。活動案の他にもアンケート協力など様々な学生活動へ柔軟に対応していきます。私たちと一緒に楽しく、充実した活動をしましょう！学観連への提案がある方は、下記までご連絡ください。

Mail address gakukanren@yahoo.co.jp 日本学生観光連盟 執行部
--

第 3 号議案

平成 25 年度予算案

平成 25 年度収支予算書

《自平成 25 年 4 月 1 日・至平成 25 年 3 月 31 日》

【収入の部】

(単位：円)

項目	金額	備考
年会費	135,000	300 円×450 名（予測）
前年度繰越金	209,559	
総計	344,559	

【支出の部】

(単位：円)

事業費	総会費	60,000	会場費、懇親会のケータリング代補助
	フィールドワーク費	48,000	フィールドワークを行う際の交通費
	講演会費	35,000	講師へのお礼、お茶、会場費
	新規プロジェクト費	30,000	新規プロジェクトを行う際の交通費、調整費
	小計	173,000	
運営管理費	備品	10,000	ポストイット、紙、ホッチキス、テープ、ペン、模造紙など
	事務費	10,000	コピー代、郵送費、切手代、通信費など
	会議費	60,000	役員会、代議員会等を行う際の会場費
	小計	80,000	
予備費	予備費	91,559	その他不足した場合の補充
総計		344,559	

会員数：477 名（平成 25 年 1 月 10 日現在）

平成 25 年度における予算につきまして、上記の通り報告致します。

作成日時：平成 25 年 2 月 23 日（土）

会 計：大垣 拓也

監 査 日 時：平成 25 年 3 月 5 日（火）

会計監査：三堀 世奈

【来年度より、入会金が年会費に変わります】

皆様から頂く貴重な資金ですので、会員の皆様に最もメリットがある使い方を、執行部で慎重に協議し、有効に活用していきます。お支払いにご協力お願いします。